

2022年11月1日



報道関係者各位

こども防災協会

段ボールやラップなど、身近なものでいかだを手作り。

【なみのぼうけん】を開催しました！

2022年7月30日(土)～31日(日)【国立江田島青少年交流の家】

「こども防災協会」は小学生と留学生ボランティアの方々と一緒に、「いざという時、生きのびる(72時間)こどもを増やすこと」・「さまざまな国の文化や習慣に触れ、共生の感覚を持つこどもを育てること」を目的として、「なみのぼうけん」を開催いたしました。このイベントは、次世代へ豊かで美しい海を引き継ぐために、海を介して人と人がつながる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環で実施しています。



イベント概要

イベント名: ネイチャーぼうけん&防災キャンプ【なみのぼうけん】

日程: 2022年7月30日(土)～31日(日)

場所: 国立江田島青少年交流の家

参加人数: 合計66名

参加者内訳:こども44名(小学生、内 被災経験世帯8名)／ボランティア16名／スタッフ4名／バス運転手2名
ボランティアの出身国:全9カ国(カザフスタン・タジキスタン・エルサルバドル・アメリカ・ベトナム・フィジー・インドネシア・ブラジル・ケニア)

身近な材料でイカダづくり

実際の災害では、イカダの材料が手に入らないことも想定されるという背景から「身近なものを応用してつくる」ことに挑戦しました。材料は段ボールやゴミ袋、ビニール袋、サランラップなど。「好きな形で作ってみよう!」と、ボランティア協力のもとで思い思いのかたちで作っていました。

施設から水泳場までは徒歩で20分ほど。アップダウンもある道も「自分たちで作ったイカダを使って早く遊びたい!」と、こどもたちは助け合いながら必死に運んでいました。さまざまな形のイカダを実際に海に浮かべたところ、上手く乗れるチームもあれば、乗れずに沈んでしまったチームもありました。形の違いを見比べながら、「水に浮く力」(=体積は軽い方が浮くこと)についても体感していました。最後にイカダを解体する時には、「これ壊さずに持って帰ってもいい?何かあったら人を助けられるかもしれないから」という発言も。目的意識をもって参加していた様子が見られました。



ウミホタルをみつけよう

ウミホタルを捕まえる仕掛けを制作して設置。その生態を学ぶとともに、夜間の海の危険性についても学習しました。浜の端の方に仕掛けた罠に多くのウミホタルが集まっていたのですが、手に取ると次第に発光が弱まっていきます。「どうしたらもっと生きていてくれるかな?」と小さないのちを守ろうとするこどもたちの姿が印象的でした。一方で、指で潰して発光液が出てくるのを見て「なんで光るのかわかった!体の中に光る液体が入っているんだ!」という子も。それぞれ好奇心のままに活動を楽しみ、新たな発見をしていました。



参加した子ども・保護者からの声

「本当に海にいかだが浮くのかな?と心配だったので、作っているとき何回も上に乗って強さを確認しました。海の上で乗れた時は本当に嬉しかったです。」

「仕掛けの中にウミホタルがたくさんいて驚きました。最初は少し怖かったけど、慣れてくると可愛かったです。」

<団体概要>

団体名称 : こども防災協会

URL : <http://kodomo-bousai.net/>

活動内容 : 防災に役立つ判断力と行動力を学べる「こども防災キャンプ」を実施しています。キャンプには、留学生ボランティアも多数参加。さまざまな国の文化や習慣に触れながら、災害に関わる英語も一緒に学ぶことができます。



日本財団「海と日本プロジェクト」

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。

<https://uminohi.jp/>

<お問い合わせ先>

団体名: こども防災協会

担当者名: 鹿島 美織

電話: 090-6684-9696

メールアドレス: volunteer@kodomo-bousai.net